

個別施設計画

策定年月 R2.1

施設名	岡山聾学校			所在地	岡山市中区土田51		
敷地面積	24,917.00 m ²			棟数	33 棟 (計画記載対象 7 棟)		
延床面積	8,734.35 m ²				※対象は200m ² 以上の建物(車庫、倉庫等は500m ² 以上) ※公舎・寮は全て対象		
設置目的	特別支援学校教育のため						
【想定される自然災害】							
予想震度 5強		津波 ー		浸水 ー			
建築規制	市街化調整区域 建ぺい率60%、容積率200%						
エネルギー使用量 (2018年度)	電気	ガス	水道	燃料(灯油)			
	223,341 kwh	2,247 m ³	4,568 m ³	13,220 0			
管理上の特記事項	敷地内未利用地 なし 敷地内貸付地 なし 岡山市避難所(土砂災害、洪水、津波)協定による避難場所						

1 施設内建物の概況

名称	小学部及び特別教室棟(40棟)1,27,28,29	中学部棟(44棟)5	高等部棟(45棟)6
築年(西暦)	1971年	1972年	1972年
構造	鉄筋コンクリート造 3階	鉄筋コンクリート造 3階	鉄筋コンクリート造 3階
建築面積	1,573.09 m ²	238.80 m ²	256.80 m ²
延床面積	3,656.47 m ²	634.80 m ²	688.80 m ²
主要な用途 (室名等)	職員室 普通教室 理科教室	実習室 職員室 普通教室	職員室 進路室 普通教室
主要な設備 (屋外を含む)	消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備 消火設備	電力設備(受変電設備) 空調設備 給排水設備	空調設備 給排水設備
利用状況	高	高	高
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	適	不適
	中性化 ※3	適	適
長期使用の適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値≥0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm2未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜がある場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名称	工芸棟(47棟)8	幼稚部棟(48棟)9-1,2	体育館(61棟)16	
築年(西暦)	1972年	1972年	1973年	
構造	鉄骨造 1階	鉄筋コンクリート造 1階	鉄骨造 1階	
建築面積	366.00 m ²	589.99 m ²	742.34 m ²	
延床面積	366.00 m ²	589.99 m ²	742.34 m ²	
主要な用途 (室名等)	工芸実習室	職員室 保育教室 遊戯教室	体育館	
主要な設備 (屋外を含む)	電力設備(受変電設備) 給排水設備	空調設備 給排水設備	消火設備	
利用状況	高	高	高	
耐震性 ※1	有	有	有	
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	適	不適	適
	中性化 ※3	不適	不適	適
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし	

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名 称	寄宿舍及び食堂棟(49棟)14-1.2		
築年(西暦)	1972 年		
構 造	鉄筋コンクリート造 2 階		
建築面積	726.24 m ²		
延床面積	1,158.04 m ²		
主要な用途 (室名等)	寄宿舍		
主要な設備 (屋外を含む)	消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備 消火設備		
利用状況	低		
耐震性 ※1	有		
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	不適	
	中性化 ※3	不適	
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	
	地盤沈下 ※5	適	
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし		

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

2. 対応方針

(1) 施設全体の方針

老朽化の進んだ建物について修繕、改修を行い、使用を継続する。

(2) 建物ごとの方針

区分	対応方針
小学部及び特別教室棟(40棟)1,2,7,28,29	予防保全を図る。
中学部棟(44棟)5	予防保全を図る。(予防保全を図りながら使用した後、改築等を検討する。)
高等部棟(45棟)6	予防保全を図る。
工芸棟(47棟)8	長寿命化改修を行う。
幼稚部棟(48棟)9-1,2	予防保全を図る。(予防保全を図りながら使用した後、改築等を検討する。)
体育館(61棟)16	予防保全を図る。
寄宿舎及び食堂棟(49棟)14-1,2	予防保全を図る。(予防保全を図りながら使用した後、改築等を検討する。)

3. 施設全体のスケジュール

(概要)

1 長寿命化改修
 屋上防水を行うほか、内部・外部の改修を行う。
 (47棟)2022年度以降設計・施工

(単位:億円)

区分	対応方針	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
小学部及び特別教室棟(40棟)1,2,7,28,29	予防保全			予防保全を図る。							
中学部棟(44棟)5	予防保全			予防保全を図る。							
高等部棟(45棟)6	予防保全			予防保全を図る。							
工芸棟(47棟)8	長寿命化改修						設計・施工				
幼稚部棟(48棟)9-1,2	予防保全			予防保全を図る。							
体育館(61棟)16	予防保全			予防保全を図る。							
寄宿舍及び食堂棟(49棟)14-1,2	予防保全			予防保全を図る。							

4. 概算費用

総額 1億円(長寿命化改修)